

ひとりひとりひかる

きぼう

2018 1/1
第90号

発行 : かしの木の会/かしの木の里内 一宮市富田字砂原 2147
かしの木 ホームページ [http : www.kasinoki.jp/](http://www.kasinoki.jp/)



新春のお喜び

かしの木フェスティバル

申し上げます

90号 きぼうの目次

会員の皆様方には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

かしの木の会も今年で38年の活動となります。これもひとえに、会員・購読会員の皆様からのご支援とご協力のお陰と、心から厚くお礼申し上げます。

今年も昨年同様、引き続き、地域の方々、利用者に対して少しでも役に立つように頑張りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。



表紙・写真・目次P. 1
新年のご挨拶P. 2
会コーナー ①/かしの木音楽会P. 3
地域コーナー①/かしの木フェスティバルP. 4
// / // 会計報告P. 5
地域コーナー②/木曾川高校音楽会P. 6
法人コーナー①/樫の木園P. 7
法人コーナー②/らちえっとP. 8
法人コーナー③/かしの木の里P. 9
会コーナー ②/研修委員会P. 10
// / //P. 11
地域コーナー③/盆踊り・夏祭りP. 12
お知らせコーナー①/P. 13
// ②/予定などP. 14

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。
今年も皆様の新しい
年が、素晴らしい充実
した一年になりますよ
うお祈り申し上げます。



さて、かしの木の会
は昭和56年に『この子等の幸せを考える親
の会』として発足しました。当時は障がいを
抱える子の親だけの会でしたが、親だけでは
なく広く市民活動として地域福祉の運動を
進めていこうと、平成12年に会の名称を
『かしの木の会』と改めました。

「障がいのある人もない人も、誰もがこの
生まれ育った地域で安心して暮らしたい」と
いう願いを込めて活動しています。主な活動
としては、会報誌の発行、手芸品の製作と販
売、地域の方と共に楽しむ音楽会、講演会、
施設見学等…幅広い活動をしています。
しかしここ最近、親の高齢化等の問題でこれ
までの活動の継続が難しくなっており、
活動内容の見直しが必要になってきました。

かしの木の会の趣意書にありますように
「人と人とが交流し、人の輪が広がっていく
ように、地域とのつながりを持ち、この地域
が一つの大きな家族のように手をつなぎあ
って生きていく中心となる」という気持ちに
は変わりありません。細く長く続けていけた
らと考えています。

今後活動内容や活動規模が変わりまして
も、どうかご理解いただきまして、今後とも
ご支援いただきますようお願い申し上げま
す。

かしの木の会 会長 小塚 峰子

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。
理事長として三度目の
新春を迎えました。昨年
の主な行事は、天候にも
恵まれ盛大に開催できま
した。これもかしの木の
会員はじめ地域の方々な
ど多くの方々のご支援、ご協力の賜ものと心
から厚く御礼申し上げます。



さて、昨年は榎の木福祉会にとって組織改
革を推進する要の一年でした。定款の改正、
新制度による理事、評議員の任命など重要課
題を解決し、昨年7月から新制度による榎の
木福祉会をスタートさせることができました。

一方、消防法の改正によりグループホーム
に自動火災報知設備やスプリンクラー設備
の設置義務は急務な課題でした。幸いにも、
関係各位のご協力により用地の購入ができ
新規グループホーム建設による解決策を実
現させることができました。昨年11月2日
に起工式をすませ、本年3月の竣工を目指し
順調に建設を進めています。グループホーム
への入居を希望しておられる方々にも少な
からずお応えできるものと思います。

また、老朽化が進んでいる施設を中心に、
施設設備の改修工事を積極的に進めており
ますが、もぐらたたきの様相であり、抜本的
な大改修計画が必要になってまいりました。

本年は、榎の木福祉会誕生から38年目を
迎えます。成年にちなみ法人内部組織の足腰
を強化しつつ、差し迫る課題の解決に向け着
実に歩を進めてまいり所存です。関係各位の
ご支援、ご協力をお願いし、年頭のご挨拶と
いたします。

榎の木福祉会 理事長 北川 登

会コーナー①

かしの木音楽会

イベント委員会企画による音楽会が、平成29年9月10日（日）の午後1時30分から、尾西グリーンプラザにて開催されました。昨年度は、音楽ホールが耐震性等の問題で取り壊され、音楽会は1年延期になりましたので、今回は満を持しての開催でした。



しかし個人的にはあの音楽ホールは、もったいなかったと痛感しています。音響効果を十分に生かした建築構造、設置したある音響機器、照明機器のクオリティーの高さ、何より昭和の匂いのする床からせり上ってくるスタンドマイクなど、年月が経っているとはいえ、その機能は今でも十分通用するものであり、あらゆる点において心から悔やまれます。実際、撤去の寸前まで、一宮市民の音楽発表会等で有効活用されていたのですから。今更リカバリー不可能な愚痴を申し上げても仕方がないので、かしの木音楽会のお話に戻ります。



さて、当日は穏やかな晴天に迎えられ、朝早くから集合した我らがスタッフ、ボランティアの人たちも、てきぱきと会場を準備しました。今回も一宮市教育委員会のご配慮により、授産製品バザーの機会をいただきました。11時頃になると、出演者のラッキー・サウンド・プラスの皆さんが、三々五々集まって来られ、楽器をケースからおもむろに取り出し、微妙なチュ

ーニングののち、リハーサルが始まりました。このグループさんは、愛知県愛西市で産声をあげ、西尾張地区で活躍されておられ、当日の参加人数は28人でした。入念な音合わせを終えたところで、控室で簡単な昼食を摂られ、本番に向けてスタンバイしていただきました。ほどなく12時を過ぎますと、利用者さんや親御さんが入場され、少しずつ客席を埋めていきます。地域の皆さんや檜の木福祉会の役員さんも、演奏に酔いしれようと会場にお越しになりました。

開演時間になり、進行役はベテランの青木さんで、小塚会長と北川理事長からご挨拶をいただき、そして演奏が始まりました。演奏曲は、前半が①愛がすべて、②愛を込めて花束を、③ラブラッキー（オリジナル）、④フルート三重奏、⑤勝手にシンドバッド、後半は⑥sing sing sing、⑦wherever you are、⑧君の瞳に恋してる、⑨シロクマ（アンコール）でした。それにしても、物凄い迫力の演奏でした。生音とはいえ、音響効果が十分期待できない会場にて28人のプレイヤーが一度に楽器を鳴らしたときの音圧は、圧倒的でした。それは、疑いもなく私たちの心の中にある琴線を揺さ振り、幼い頃の居ても立ってもいられないほどの心地よい情感を呼び起こしました。演奏の後半では、あまり馴染みのない曲であるにもかかわらず、利用者の皆さんは思わずステージにせり出してきて、運動機能の全てを駆使し、表現豊かで混じり気のないオリジナル・ダンスを惜しみなく披露されていました。



当日の来場者は、一昨年には及ばない120人ほどでしたが、アンケートの結果100%の人が楽しかった、と回答をいただきました。また、曲の合間で、それぞれのプレイヤーが実際の演奏を交えながら、色々な楽器の紹介をされていたことも、大変楽しく印象的でした。最後に、イベント委員一同、来年度もまた素晴らしいステージの企画をしたいと思っています。

イベント委員会 高松勉

地域コーナー①

フェスティバルを終えて

天気にも恵まれ、無事フェスティバルを開催する事が出来ました。多くの方々にもご来場いただき担当一同喜びを感じております。



今年度より実行委員長を任せられ、身の引き締まる思いで準備を進めて参りました。まだまだ未熟者で各担当者には大変なご迷惑をお掛けして申し訳ない気持ちと一緒に作り上げる事ができ嬉しい気持ち、こんな私に付いて来て下さりありがとう、という気持ちといろいろな気持ちが折り重なっていました。そして今、無事フェスティバルを終えてホッとした気持ちです。

当日を振り返るといろいろな事がありました。今年度は何か新しいことをやりたいと思い、一宮警察署に依頼をして白バイの乗車体験を行なっていただけた事になりました、諸事情により白バイの到着が少し遅れてしまいましたが無事白バイも到着して乗車体験を行なうことができ、多くのお子様にも楽しんでいただけたのではないのでしょうか、そしてなかなか普段触れることのないものなので大人の方も沢山の方が列を成していたのでやって良かったなと思いました。

その他の催し物では福祉体験コーナーにて

暗視ゴーグルと白杖体験、車椅子体験を実施していました。やはり福祉のお祭りですのでこちらも多くの方々に体験いただきたいという思いで看板を目立つように作り例年以上に力を入れて実施させていただきました。来年以降も出来る限り力を入れて実施していきたいと思います。

そして毎年恒例となっているご当地アイドルによるステージショーや各種催しも大いに盛り上がっていたと思います。



各模擬店についてですが昨年以上に食事を準備させていただきましたが、フェスティバルの終了を待たずして完売してした模擬店が多々ありましたので、ご来場いただいた皆様には大変申し訳ないと思っております。

模擬店に関してだけでなく準備から当日を迎え片付けに至るまで振り返ると反省しなければいけない点が多々ありました。また来年度のフェスティバル開催に向けて、その反省を活かしてより良いフェスティバルになるよう努力していきたいと思います。

第17回かしの木フェスティバル

実行委員長 仙石靖徳

かしの木フェスティバル 会計報告



(運営費)

収入の部	(円)	備考
協賛金収入	162,000	
お祝儀	42,000	
模擬店収入	149,811	加・クライス等
フリーマーケット	20,000	ブース代
運営費(本部)	260,153	
合計	633,964	

支出の部	(円)	備考
公告宣伝費	74,082	ポスター
郵送料・手数料	24,856	案内状
模擬店材料費	20,000	ボールプール
会場設営費	150,850	整地等
一般物品費	59,924	
保険	16,152	
出演料	10,000	アナウンサー
景品	83,100	
弁当代	195,000	
合計	633,964	

(模擬店)	純利益(円)	事業所
クッキー・ポップコーン	26,940	作業所
ぜんざい・コーヒー	33,632	榎の木園
やきそば	71,676	里
みたらし	38,602	ステップ
フランクフルト	20,260	わがんせ
パン・お好み焼き	32,210	わがんせ
串カツ	7,865	プラザ

(模擬店)	純利益(円)	事業所
ポテト	30,800	プラザ
ジュース	31,270	らちえっと
うどん	11,418	GHC
コロッケ・からあげ	16,571	きーぷ
花苗	77,230	さいた
手芸品	48,500	会
不用品	76,495	会

※それぞれの事業所の授産会計等の収入になりました。

フェスティバルにご協賛いただいた方々
 内藤行政書士事務所 浅井商店
 キッチンカワサキ ルック未来
 鈴木クリニック 丸光商店
 尾西信用金庫 橋本住設
 マルエム商会 大野設備工業
 (株)名古屋食糧

ミットブティック末広 イワコシ
 ルック未来びさい アトム保険
 ツバメプロパン 大東社
 菊屋米穀店 青山歯科
 (株)CoCo 壺番屋 のだ電機(株)
 順不同
 たいへんありがとうございました。

お知らせ

きぼうの発行元が 代わります

広報誌「きぼう」が、来年度4月からリニューアルされ、福祉会が発行することになります。事業所等の利用者の活動や、現場職員の生の声を交えながら、紙面を構成し、地域

の方々や関係者のみなさんいろいろなメッセージを発信していくことができたらと思っています。



さらに、パワーアップした広報誌「きぼう」にご期待ください。

福祉会・広報委員会

地域コーナー②

木曾川高校ブラスバンド部の 演奏会に行ってきました。

昨年9月23日（土）に、恒例の木曾川高校ブラスバンド部の皆さんによる木曾川高校音楽会に行ってきました。

毎年、檜の木福祉会のために行ってくれている音楽会です。利用者みなさんに楽しんでもらえるようにと、事前にリクエストを聞いて下さって、曲目や構成を工夫してくださっています。

当日は、大人数での参加にもかかわらず、部員の保護者の方たちが細やかな配慮をして下さって、スムーズに入場させていただくことができました。

午前10時より檜の木福祉会約200名の参加で演奏がスタートです♪



毎年、全国大会で優秀な成績を収められている木曾川高校のブラスバンドの生演奏は時に激しく、時に優雅に、時にユーモラスに、複雑な楽器を巧妙に操り、利用者みんなが楽しめるようにと、素晴らしい演奏を披露して下さいました。

はじめのうちは、利用者みなさんもやや緊張気味に演奏を聞いていらっしゃいましたが、リクエスト曲が流れ出すとみなさんのボルテージは最高潮に！



可愛らしい衣装をまとったのアニメソングメドレー、AKBやディズニーメドレー、年配の人向けにはヤングマンや美空ひばり等の懐メロと盛り沢山な内容でした。

全ての利用者に配慮していただいた心温まる曲目に、皆さんもテンションが上がり、ステージ前のスペースで楽しく踊らせていただいたり、一緒に口ずさんだりと、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。

最後のアンコールでは、童謡「ふるさと」を、みんなで一緒に歌える様にと大きく見やすい歌詞カードを高く掲げていただき、全員で大合唱することができました。さらに退場時も、多くの皆様の親切な誘導で、何一つトラブルが起こることなく、安全に帰ることが出来ました。

毎年、この演奏会を通じて、木曾川高校と檜の木福祉会が交流できる機会をいただき、本当に感謝しております。

木曾川高校ブラスバンド部の皆様、今年も素晴らしい”音”と”楽しみ”をありがとうございました。

かしの木の里 大塚 雅彦

法人コーナー①

檜の木園 活動報告

4月より新メンバーでスタートし、早いもので半年以上が経ちました。現在、檜の木園では44名の利用者の方が通われています。（生活介護33名、就労継続B11名 ※平成29年11月現在。）

今年度より看護師・鍼灸師が1名ずつ配属されたことにより、健康に向けた取り組みが行えています。

まず、看護師によるバイタルチェックを行い、体調の確認を行います。毎日することで安心して活動が行えます。その他、体重測定や緊急時等の通院、アドバイスなど、心強い存在です。



(※血圧測定の様子)

鍼灸師は、身体を確認し、施術したり、運動やケアのプログラム作成、訓練のアドバイスを行ってくれます。様々な理由により、身体に負担がかかっている方が多く見えますので、負担軽減になればと思います。



(※施術の様子)

活動のなかで運動する機会もあります。主に生活介護のグループでは、定期的に外出活動を行い、散歩を行っています。しかし作業中心の就労グループは日中に散歩をする時間がなかなか確保できません。そのため、室内にて体を動かす機会を確保しています。朝にはラジオ体操、休憩時には音楽に合わせて体を動かしたり、足踏みをする運動。音楽があることにより、楽しみながら取り組めるのがいいですね。

また、この秋から始めたのがエアロバイク。始めはどれだけの方がやるのか？と心配しましたが、意外に好評で多くの方が取り組まれています。



(※エアロバイクの様子)

利用者の皆様には、日々楽しく過ごしていただきたいと願っております。そのためには、やはり「健康」は欠かせません。運動不足、運動機能の低下、体重増加、高齢化など、健康への取り組みは今後益々大切になっていきます。日中活動の取り組みのなかで、健康的な活動の提案、実施し、よりよい生活の一役を担えたらと思います。

新しい職種を加え、職員一同、より健康を意識し、安心して過ごせる事業所を目指していきます。

檜の木園 加藤 栄治

法人コーナー②

らちえつと活動報告

今年度は、職員の人事異動により体制が大きく変化しました。長年、共にらちえつとを支えてくれた職員が異動となり、年度初めは利用者様にはご迷惑をおかけしました。しかし、半年が経ち、新たな職員の新しい風が吹き始め、らちえつとにとって良い影響が出ていると感じます。

その一つとして、オリジナルキャラクターの「らちえつとくん」の誕生があります。長年オリジナルキャラクターを作りたいと職員と話していましたが、ようやく誕生させることができました。今では、「らちえつとくん」は事業所内で色々活用されています。らちえつと自主製品の「5本指靴下」や「プリン状石鹸」のラベルを「らちえつとくん」バージョンにしました。また、「らちえつとくん」をプリントした「ユニクロTシャツ UT」や、「LINEスタンプ」の販売も開始しました。お陰様で、たくさんの方にご購入いただいています。さらに、毎年出展している「一宮七夕まつり」の七夕飾りコンテストで、「らちえつとくん」の飾りが念願の大賞を受賞しました。

このように、「らちえつとくん」をきっかけに、事業所らちえつとの歯車も上手くかみ合いスムーズに回りだしたように感じます。

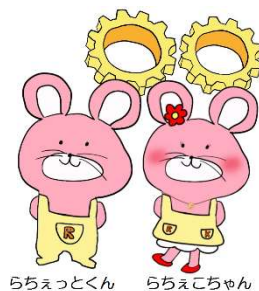


もう一つの大きな変化は、入浴用のシャワートロリーと移乗用のリフトを整備できたことです。その結果、利用者様の安全な入浴や移動が出来るようになり、職員の身体的負担も軽減しています。らちえつとの利用者様の中には、毎日入浴するという当たり前の生活が困難な方もいらっしゃいます。らちえつとで入浴サービスを始めたことで、普段と違った、気持ちよさそうな表情が見られ、私たち職員も新鮮なやりがいを持てるようになりました。まだ始まったばかりで、お待たせしている方もいらっしゃる状況ですが、これから皆さまのニーズに順にお応えできるよう進めてまいります。

また、大変辛いご報告ではありますが、昨年、二人の利用者様が天国に召されました。一人はらちえつとでの入浴を希望されていました。結局、一度きりのお試し入浴体験でしたが、その時の彼の素敵な笑顔が忘れられません。もう一人の方も突然の別れでした。彼は、私たちにたくさんの奇跡を通して、見えない世界のことや、幸せに生きるコツを教えてくださいました。

らちえつとの皆さまは生と死が隣り合わせの日々の中、命がけで精いっぱい生きていらっしゃいます。私たち職員は、微力ながらその人生に寄り添い、お付き合いさせていただく中から、命の大切さや儚さ、一日一日、一瞬一瞬の大切さを教わっています。

これからも、らちえつとの皆さまに教えていただく事を心の支えとして、これらの取り組みを正しい方向へ回し続けたいと思います。



らちえつとくん らちえつとちゃん

らちえつと 橋口 幸

法人コーナー③

「本人の希望」を応援すること かしの木の里に戻ってあれこれ考える

昨年4月に障害者相談支援センターの仕事から12年ぶりにかしの木の里に戻ってきました。

それぞれに歳を重ねたかしの木の里のみなさんの顔を見ながら、12年という歳月はどんな時間だったのだろう、楽しく暮らしていたんだろうか、穏やかに暮らしていたんだろうかとあれこれ思いを巡らせる毎日は、懐かしくもあるけれど、戸惑うことも、時に苦しくなることもあり、なんだかんだで1日があっという間に過ぎてしまう、そんな毎日です。

「本人が希望する暮らしを支援する」。長く相談支援の仕事をしていて、この思考はすっかり身についたけれど、施設での暮らしに再び触れ、あらためて障害のある人たちの想いを実現することは難しく、そもそもこの人がどんな想いを抱いているのかを理解すること自体が本当に難しいのだということを思い知らされる。

「本人の希望する暮らし」って、一人ひとりの言葉に一生懸命耳を傾けたところで、上手に言葉で伝えてくれるわけでもなく、たとえ言葉にしてくれたとしても、それが本当に求めていることであるとは限らない。

人の気持ちを理解するということが本当に難しく、それでもどんなに難しくても、私たちは、それぞれの「希望する暮らし」を応援するための活動でなければ意味がない。

かしの木の里でたくさんの人たちと一緒に暮らすみんなの「希望する暮らし」を考えたときには、あらためてこのことの難しさを痛感させられることになる。

集団の暮らしでは、想いを実現する前に、命や安全、清潔、集団のルールなどを優先せざるを得なかったり、スタッフの数や、時間や力量が足りていなかったり、一人の人の人生を思い巡らせたり、本当に望むことを探ったりすることに割ける時間は限られている。だからといって、その現状に甘んじていいとは絶対に言えない。

スタッフたちには「その人の人生はその人本人が主役であること」「本人が自分で決められるように選択の機会を提供すること」の大切さをいろいろな機会に伝えるけれど、いつも心の底に苦いものを感じてしまうのも事実。

現実には理想どおりにいかないことはよくわかっている。けれども私たちが行う福祉の場合は、理想をあきらめたら、福祉が福祉でなくなってしまうようなところもある。

まだまだ未熟で修行中の私たち支援者は、時には集団の力に流されるし、食事介助や入浴介助が、本人の生き様を思い巡らせる時間より優先されてしまう。スタッフの勤務時間の中では、どうにも解決しきれないままその場を離れざるを得ない日もある。あるべき方向を見失わないで仕事をすることは、とても難しくエネルギーがいる。

難しいことを考えずに、目の前の行うべき介護をていねいにこなしていくだけでも達成感を感じることができる。けれど、「本当はどう思っているのだろうか、これでいいのだろうか」なんて追及するばかりに、後ろめたささえ感じてしまうなんて、なんだか割に合わないような気もする。けれど、割に合わなくても、「本人の想いの実現」も「日常の介護」も、どちらも大切な仕事なのだから仕方がない。

想いを実現するという仕事と、日常の心地よい介護を行うということは、本当は同じ重みでバランスが取れていなければならないはず。障害のある人は必要な介護だけがあれば生きていけるわけではないけれど、介護がなければ生きることはできない。ただそれだけのことなのに、どうしてこんなに難しいのか。せめて、想いを実現するために、じっくり時間をかけることが、お金にならないとか、効率が悪いとか言われない環境だけは守りたいと思う。そうでなければ、支援する側も支援される側も救われない気がする。

福祉の仕事はどこまでいっても難しい。けれど、みんなの幸せを考える仕事だから難しくあたりまえ。かしの木の里に戻ってきて、共に暮らし、共に生きる社会の実現には力が必要なのだとあらためて感じる。

かしの木の里 野崎

会コーナー②

研修委員会学習会

11月16日 尾西生涯学習センター大ホールにて「我が事・丸ごと」地域共生社会を考える、をテーマに立命館大学特任教授の峰島厚先生のお話を伺いました。



今、起こっている事態として、生活介護、就労継続支援B型の人数が定員を上回っています。その為に福祉事業所の人材が不足しています。

その要因は国の社会保障費の削減と補助単価の低さにあります。

国は補助金の改善をしないで事業者の責任で経営と営利を追求しています。

2017年3月に事業の一体的運営の解禁で障がい者、保育、介護の枠を取り除き全てを一緒に行っても良いとしました。

2017年5月地域包括ケア強化法・福祉法改正(18年4月施行)で障がい者・保育・介護のすべての相談を地域の社会福祉事業者が請け負う事となってしまいます。

地域包括ケア強化法・介護保険法等の改訂により「共生型サービス」が新設され、専門性の確保が言及されないまま高齢者も障がい者も同じ職員さんがかかわる事となって、補助も無く専門性も無く矛盾することになります。

2017年9～12月報酬単価チームの議論は「我が事・丸ごと実現本部」は官僚の考えで現

場の人が入っていない矛盾の中で行われています。共生型サービス、重度対応型グループホームによる65歳以上、あるいは軽度者外し、さらには安上がりなサービスへの移行となるものです。

主たる財源が揺らぐなか「なんとかならない」実態が想定され職員さんも専門性無視、低賃金での狩り出しが考えられ「しんどい」「待遇が悪い」の環境の中で働く事になります。しかし辞めていく職員さんがいるなか「いきがい」「ここで働きたい」というやりがい・気持ちを持ち続けている職員さんに支えられているのが現状です。

新たなものを作り出せるチャンスは依然として変わらずこれまでと同様に、事業拡大をそれぞれに、そして要求に応える、これしかないとの事ですが、事業者も事業の連携をして一緒に声をあげ、補助金の活用も連携して助け合う事が必要になるということでした。

「学習のみでなく実現することが大切、所属する法人にとらわれず、交流し連携することで開かれる」との先生のお言葉に改めて交流の大切さを意識しました、でもなかなか難しいです。



参加者 33名

うち 檜木の会 18名 (内職員 4名)
尾張のつどい 15名

研修 鈴木

会コーナー②

施設見学 「たくと大府」

昨年9月6日水曜日に社会福祉法人大府福祉会の生活介護事業所、「たくと大府」に見学に行ってきました。

平成28年4月に開所した「たくと大府」は、大きな池と公園に囲まれた静かな環境の中に建つ、真新しい事業所でした。計画から完成まで3年の時間をかけて構想を練り、障害支援区分5～6の比較的重い知的障害や行動障害のある利用者さんが、心地よく過ごせるようにと様々な工夫が施されていました。利用者さん同士の相性を考慮するために、作業室が玄関に入って左右に分かれていたり、多動の傾向のある利用者さんが廊下に出て行っても、回廊式の廊下をぐるりと回ってまた元の場所に戻ってこられるなど、それぞれの利用者さんの特性に配慮した建物の設計になっていました。ほかにも、外部からの刺激に敏感な利用者さんが落ち着いて活動できるように窓のない作業室があったり、他人とのかかわりが苦手な利用者さんやパニックを起こしてしまった利用者さん用に個室が多めに設けられていたりしました。

また、手厚い支援が必要な利用者さんが多い中で、なるべく指導員さんの目が広く行き届くように、作業室、トイレ、更衣室の全部の入り口が、一か所にまとめられて、ちょっとしたホールになっていました。

「たくと大府」は、利用者さんの立場に立って考え抜かれたとても素晴らしい施設でした。しかしこれも、立地条件や資金の問題、職員さんの熱意などのすべての条件がピタッと揃わなければ実現しないものなのだと感じました。「たくと大府」は、大府福祉会の障がい者福祉に対する理念がぎゅっと詰まった密度の濃い施設だと思いました。

参加者20名（うち職員4名）

研修委員会 清水



いちよう祭りに参加して

平成29年11月18日（土）～26日

（日）の9日間、稲沢市祖父江町は、いちようまつりで、まさに黄色一色にそまる。正式名称は、『そぶえイチョウ黄葉まつり』であり、今年度で20回目を迎える。その年数にあやかって、本年はテーマに『イチョウの郷の成人式』と掲げ、記念行事も用意されていた。かしの木の会や福祉会の事業所が参加する模擬店は、体育館の中にあり、パーティーションで囲われた5m四方の空間である。お客さんから見えづらく、分かりづらい場所だなぁというのが第一印象。檜の木に割り振られた11月18日は、残念ながら雨。霜月の寒空から落ちてくる雨に、客足は湿りがち。外のテントブースからお客を呼ぶ声も、息でくもりがち。この日ばかりは、体育

館の中でよかったとつくづく思う。客足を心配するより、風邪をひきそうな我が身を心配する。

体育館のステージで繰り広げられる園芸やコンサート、フラダンスの活気とは別に、各事業所や団体の販売ブースは、ご想像のとおり。どうも、イチョウの葉のように、末広がりにはいかなかったようだ。



只井 秀明

地域コーナー③

櫛の木盆踊り大会

平成29年8月10日(木)、櫛の木作業所にて櫛の木盆踊り大会が開催されました。

17時30分に始まりましたが今年は天候が悪く19時40分頃一回目の花火の打ち上げの後中止となってしまいました。しかし、短縮された時間の中で利用者の皆様や地域の方々に楽しんでいただくことができました。

盆踊り開催宣言後、盆踊りが始まりました。初めは踊りの輪に入る人が少なかったのですが、時間と共に参加者が増えていき、踊る人達やそれを見ている人達の笑顔がとても印象的でした。

今年もいろいろな模擬店が並びました。店舗によってはとても長い行列をつくっていましたが、皆さん好きな食べ物をとても美味しく食べていました。

19時30分頃花火の打ち上げが始まりました。既に雨が降り始めていたため外にで近くで見る事が出来なかったのですが、それでも花火が打ち上がった時には大きな歓声が上がりました。

今回の盆踊り大会はいかがでしたか？悪天候の中でしたが満足していただけた内容だったと思っております。今後も櫛の木福祉会の利用者の皆様と地域の方々の期待に応えることができるように、来年度もより良い盆踊り大会を実施していきたいと思っております。ありがとうございました。



櫛の木作業所 戸田 政之

チャイブ夏祭り

平成29年7月8日(土)

前年度の雨天中止の鬱憤^{うっぷん}を晴らすかのような晴天に恵まれ、お祭り日和となりました。

この日、恒例のチャイブ夏祭りを開催する事ができました。今回は職員も変わり、準備段階から当日の運営まで様々な変更を行いつつも、例年と変わらない『地域のお祭り』を目指し開催致しました。

17時30分のスタート前から近所の方やお子様連れの方など、たくさんのお客様に会場に来て頂いて、大盛況で終えることができました。

これもひとえに皆様ののお力添えのおかげと深く感謝しております。



- ・力強く楽しく演奏頂いた『ののはな太鼓』の皆様。
- ・急な依頼に快く対応頂きました、よさこいグループの『一豊』の皆様と、紹介頂いた『天舞』の皆様。
- ・愉快地に全体を盛り上げて頂いた『踊りの会』の皆様。
- ・おいしいこ焼きをご提供頂いた『たからや』様。
- ・当日までの準備でご協力頂いた各団体の皆様。
- ・当日まで色々とお騒がせ致しましたご近所の皆様。そして、当日ご来場いただいた全ての皆様。本当にありがとうございました。



次回も地域との連携を大切にして、より良い『地域のお祭り』を目指していきたいと考えております。
チャイブ 入山

お知らせコーナー①

赤十字奉仕団様の年末訪問記

年末になると、毎年一宮市の赤十字奉仕団の皆さまは、慰問物品（コーヒーセット、日本茶など）を携え檜の木福祉会を訪問されます。今年は、12月6日（水）の午前中にお越しいただきました。まず、脇田委員長様からご挨拶があり、次に北川理事長がお礼を述べました。法人全体についての説明、質疑応答の後、奉仕団の皆さまは、各事業所の自主製菓子をたんまり get されていました。

最後に、喫茶らちえつとでまったりとコーヒータイムを過ごしていただき、また来年もお互い元気な顔でお会いしましょう、と無事帰路につかれました。 法人事務局



赤い羽根共同募金「街頭募金運動」に参加しました！

10月1日の日曜日、一宮市共同募金委員会主催の赤い羽根共同募金「街頭募金運動」が街中で一斉に行われ、かしの木の会、檜の木福祉会も参加しました。

旧尾西地区では、①ピアゴ尾西店、②平和堂尾西店、③カーマホームセンター、④スーパー三心三条店の4か所で行われ、私たちは④のお店の担当でした。三条小学校、第一中学校の生徒さんたちも、元気な声でお客さんたちに協力を呼び掛けていました。



子供たちを見て、こうした活動がずっと先の未来まで受け継がれて行って欲しいと願いました。募金にご協力いただいた方には心からお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

会長 小塚 峰子

第12回福祉のつどい

秋晴れのさわやかな空気の中、第12回福祉のつどいが、平成29年11月12日（日）に尾西商工会館をお借りし開催されました。主催は一宮市尾西ボランティア連絡会様です。かしの木の会・檜の木福祉会は、主催者とは創立以来、持ちつ持たれつのお付き合いをさせていただいております。会館の中ではいろんな催し物が行われ、外では食欲をそそる模擬店が、軒を並べていました。こぢんまりとした行事とはいえ、そうそうたるご来賓の方も出席され、一般の参加者と模擬店で1つのテーブルに座り、一緒に食されていたりしゃいました。準備や後片付けなど大変でしたが、参加者も主催者も、一体感の持てる楽しい一日でした。



事務局 橋本

お知らせコーナー② 【 行事予定 1月~3月 】

檜の木交流会

日時・・・1月27日(土) 18:00~
場所・・・尾西グリーンプラザ

かしの木の会交流会

日時・・・3月8日(木) 11:00~
場所・・・はんなり 森本店(予定)

ボーイスカウトからの お餅の寄贈の場に同席して

12月に入り、かしの木の里のまわりはすっかり冬装束となりました。この時期になりますと毎年恒例の一宮ボーイスカウトの皆さんからつきたてのお餅をあんこ餅にしたり黄な粉餅にした心のこもったご寄贈をいただきます。今年も12月10日(日)ボーイスカウトの代表のお子さんと引率の方8名並びにライオンズクラブの方2名と総勢10名でお越しいただきました。

当日は、理事長、かしの木の里の利用者代表5名を始め総勢9名でお迎えをし、しばしの歓談の後、贈呈のセレモニーを行いました。ご寄贈をいただいたお餅は、里に持ち帰り、お昼においしくいただくことができました。一宮市ボーイスカウトの皆様本当にありがとうございました。



寄贈時ボーイスカウトの皆さんと(H.12.10)

物資販売のご報告とご協力お礼

運営委員会

かしの木の会では今年度も、夏、冬2回の物資販売を実施いたしました。

物資販売は、檜の木福祉会の事業所の自主製品や、美味しく体にいい食品、贈答品などを斡旋販売し、収益をあげる事業です。

会員の皆様には、カタログの配布・発送や、商品の仕分け・配達など、たくさんのお手伝いをしていただきました。おかげさまで多くの方々が商品をお買い上げ下さり、

夏 1,003,840円

冬 1,184,174円

の売り上げがありました。

収益金は、会の活動の資金として有意義に使わせていただきます。ご協力をいただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

道家

編集後記

今号をもちまして、かしの木の会発行の「きぼう」は、最終号となります。原稿を書いてくださった方・発行をお手伝い下さった方・熱心に購読しご意見を寄せて下さった方、これまでのご協力に感謝いたします。

次年度からは、福祉会のお手伝いとして活動しますが、会と福祉会の橋渡しとなれる様、努力したいと思います。今後ともご協力をお願いします。

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木の会 事務局

〒494-0018

愛知県一宮市富田字砂原2147番地

Tel 0586-63-2111

かしの木の里内

Fax 0586-61-1200

檜の木福祉会(法人本部)

一宮市富田字砂原2147番地

Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200